

## 平成27年度 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 連携大学報告書

「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—」事業

|       |       |            |      |       |      |
|-------|-------|------------|------|-------|------|
| 連携大学名 | 北海道大学 | 連携大学事業推進委員 | 井上 哲 | 事務担当者 | 渡邊 勉 |
|-------|-------|------------|------|-------|------|

|              | 責任者名簿   | 役職   | 役割  | 本報告書のホームページでの開示の可否 |
|--------------|---|--|---|--------------------|
| 事業組織         | 横山敦郎<br>山崎 裕<br>柏崎晴彦<br>浅香卓哉<br>吉川和人<br>高橋大郎<br>菊入 崇<br>井上 哲  | 歯学部長<br>運営委員会委員長<br>運営委員会委員<br>運営委員会委員<br>運営委員会委員<br>運営委員会委員<br>運営委員会委員<br>運営委員会委員 | 事業責任者<br>研修実施責任者<br>研修実施担当<br>研修実施担当<br>研修実施担当<br>研修実施担当<br>研修実施担当<br>研修実施担当<br>卒後臨床研修センター歯科部門長 | ☑・否                |
| 教育プログラム・コース名 | 北海道大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム<br>がん治療の周術期における口腔管理研修コース  |  |   |                    |
| 事業計画         | <p>研修概要</p> <p>さまざまながん患者における周術期の歯科的管理に習熟し、歯科診療所において地域病院との円滑な連携を研修直後から実践できる歯科医師を育てるために行うもので、がん治療の周術期セミナー、がん化学療法前の口腔管理演習、およびがん治療周術期の口腔管理研修からなる。</p> <p>対象<br/>単独型歯科研修医 8名</p> <p>研修目標</p> <p>(1) さまざまながん患者における周術期の歯科的管理に習熟する<br/>(2) 歯科診療所において地域病院との円滑な連携を研修直後から実践できる</p> <p>研修項目</p> <p>(1) がん治療の周術期管理に関するセミナー (90分×7回)</p> <p>① 平成27年5月13日(水) がん化学療法全般<br/>② 平成27年5月19日(火) 血液内科領域のがん治療<br/>③ 平成27年5月29日(金) 小児科領域のがん治療<br/>④ 平成27年6月8日(月) がん放射線療法全般<br/>⑤ 平成27年6月23日(火) 耳鼻咽喉科領域のがん治療<br/>⑥ 平成27年7月7日(火) がん治療と口腔内合併症<br/>⑦ 平成27年7月14日(火) がん患者の歯科治療と医療連携</p> <p>(2) がん化学療法前の口腔管理演習 (120分) 平成27年12月15日</p> <p>① 新患担当症例のプレゼンテーションと質疑応答 (1人15分)</p> <p>(3) がん治療周術期の口腔管理研修</p> <p>① がん化学療法前の口腔管理を目的とした新患の歯科治療 (2週間)<br/>② 耳鼻咽喉科、血液内科、小児科各病棟への周術期口腔管理の往診 (各科病棟2週ずつ計6週)</p> <p>研修評価</p> <p>(1) セミナー受講後にレポート提出<br/>(2) 研修終了後に運営委員会メンバーによる口頭試問</p> |  |   |                    |
| 成果           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年の研修医に、当研修プログラムの希望を募ったところ、15人の応募があり、抽選で8人を決定した。</li> <li>・研修項目(1)のがん治療の周術期管理に関わるセミナーを予定通り7回終了し、e-learning教材として収録も行った。研修医に各セミナーのレポートを提出させた。</li> <li>・研修項目(3)のがん治療周術期の口腔管理研修では、①がん周術期の新患の患者さんを最低2人以上担当し、指導医の指導の下で治療を行った。②耳鼻咽喉科、血液内科、小児科への往診</li> </ul>  |  |   |                    |

|                              |   |
|------------------------------|---|
|                              | <p>を8人の研修医全員が終えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修項目(2)のがん化学療法前の口腔管理演習では、12/15に担当した新患の患者さん1人を選択し、診断・治療の概要をパワーポイントにしてプレゼンテーション(10分)、質疑応答(5分)を行った。</li> <li>・研修プログラムを全て終了後の平成28年2月19日に、担当教官7名出席の下、口頭試問を行い、8人全員の合格を決定した。</li> <li>・平成27年5月26日 長崎大学の梅田正博先生と、船原まどか歯科衛生士を招聘し、長崎大学病院での周術期口腔管理センターに関する講演を企画し、研修医全員に聴講させた。</li> <li>・平成27年8月29、30日に岡山大学で開催した医療支援歯学教育コースワーク「歯学生・歯科医療者が知っておくべき周術期医療・がん支持療法の実際」に研修医4人が参加し、レポートを提出させた。</li> </ul>  |
| <p>本プロジェクトに関連した業績、知財、受賞等</p> | <p>論文・研究発表</p> <p>高齢者歯科講演会「これからの高齢者歯科学と医療を考える」<br/>平成28年2月6日 長崎大学病院</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「北海道大学における高齢者歯科教育に関して」 山崎 裕</li> </ul> <p>知財<br/>なし</p> <p>受賞等<br/>なし</p>   |
| <p>事業費の用途</p>                | <p>消耗品</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・AVコード 1式</li> <li>・三脚 1式</li> <li>・コンテンツ作成マシン 1式</li> <li>・HI-D8PS電話機セット (PHS) 8式</li> <li>・ポータブルハードディスク 1式</li> </ul> <p>旅費</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長崎大教員招へい(北海道大学での講演) : 2人</li> <li>・公開講座出席(岡山大学) : 1人</li> <li>・医療支援歯学教育コースワーク参加(岡山大学) : 4人</li> <li>・連携シンポジウム及び第3回事業推進委員会参加(昭和大学) : 3人</li> <li>・日本造血細胞移植学会参加(名古屋国際会議場) : 6人</li> </ul> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学会参加費(日本造血細胞移植学会)</li> </ul> |

## 平成27年度 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 連携大学報告書

「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革-死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築-」事業

|       |      |            |       |       |       |
|-------|------|------------|-------|-------|-------|
| 連携大学名 | 金沢大学 | 連携大学事業推進委員 | 中村 博幸 | 事務担当者 | 奥野 理沙 |
|-------|------|------------|-------|-------|-------|

|              | 責任者名簿  | 役職                    | 役割  | 本報告書のホームページでの開示の可否 |
|--------------|--|-----------------------|---|--------------------|
| 事業組織         | 川尻 秀一<br>中村 博幸<br>長谷 剛志<br>大井 一浩   | 教授<br>准教授<br>医員<br>講師 | 事業推進委員<br>事業推進委員<br>教育カリキュラム開発・編成担当<br>実習コーディネーター | (可)・否              |
| 教育プログラム・コース名 | 金沢大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム<br>(1) がん治療支援口腔機能管理社会人研修コース<br>(2) がん治療支援口腔機能管理卒後臨床研修コース<br>(3) がん治療支援口腔機能管理コース   |                       |   |                    |
| 事業計画         | 平成27年度<br>歯科医学教育改革コンソーシアムの第3回事業推進委員会を開催<br>各連携大学の特徴あるプログラムの登録、試行<br>昭和大学歯学部で健康長寿社会を担う歯科医学教育改革平成27年度連携シンポジウムの開催   |                       |   |                    |
| 成果           | (1) 歯科医学教育改革コンソーシアムの第3回事業推進委員会に参加<br>(2) 市民公開講座“認知症治療の最新情報”において「高齢者の口腔ケアと認知症の進行予防」についての講演を行った。<br>(3) 各連携大学の特徴あるプログラムの登録、試行<br>金沢大学がんプロフェッショナル医養成プラン(がんプロ)のコンテンツを本事業へと移行するための作業を開始した。具体的な作業内容は、コンテンツの著作権処理と作製者からの使用許諾の取得である。<br>(4) 昭和大学歯学部で健康長寿社会を担う歯科医学教育改革平成27年度連携シンポジウムに参加<br>(5) 在宅訪問口腔ケア研修 金沢森本⇄砺波(11/16、12/14)【各日1名ずつ研修医に対して実地研修を行った】 人数:4名 |                       |   |                    |

|                                |   |
|--------------------------------|---|
| <p>本プロジェクトに関連した業績, 知財, 受賞等</p> | <p>論文・研究発表<br/>Iyo Kimura, Hiroko Kitahara, Koroku Kato, <u>Hiroyuki Nakamura*</u>, <u>Shuichi Kawashiri</u>; Loss of EGFR expression in oral squamous cell carcinoma is associated with invasiveness and epithelial-mesenchymal transition. Oncology Letter, 2016, 11: 201-207.</p> <p>知財<br/>なし</p> <p>受賞等<br/>なし</p> |
| <p>事業費の使途</p>                  | <p>設備備品<br/>JMS舌圧測定器、JMS舌圧プローブ、JMS舌圧測定器 連結チューブ、木製舌圧子、ゼムクリップ</p> <p>旅費<br/>第57回日本老年医学会学術集会参加・情報収集<br/>昭和大学歯学部での健康長寿社会を担う歯科医学教育改革平成27年度連携シンポジウム 参加<br/>歯科医学教育改革コンソーシアム第3回事業推進委員会 参加</p> <p>その他<br/>第57回日本老年医学会学術集会参加費<br/>高速道路代金（在宅訪問口腔ケア研修）<br/>教材移行作業、企画設計（定期的な打合せ含む）、対象科目の著作権確認・著作権処理・各講師への承諾</p>                      |

## 平成27年度 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 連携大学報告書

「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革－死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築－」事業

|       |      |            |       |       |       |
|-------|------|------------|-------|-------|-------|
| 連携大学名 | 大阪大学 | 連携大学事業推進委員 | 天野 敦雄 | 事務担当者 | 若林 真弓 |
|-------|------|------------|-------|-------|-------|

|              | 責任者名簿  | 役職  | 役割   | 本報告書のホームページでの開示の可否                     |
|--------------|--|---|--|--|
| 事業組織         | 天野 敦雄<br>竹重 文雄<br>池邊 一典<br>権藤 恭之<br>神出 計<br>北村 正博<br>松田 謙一<br>小川 泰治  | 歯学部長<br>教授<br>准教授<br>准教授<br>教授<br>准教授<br>助教<br>特任助教 | 事業責任者<br>教育カリキュラム開発・編成担当<br>実習コーディネーター<br>実習担当 (老年心理学)<br>実習担当 (老年内科学)<br>実習担当 (歯周病学)<br>実習担当 (歯科補綴学)<br>実習担当 (高齢者歯科学) | <input checked="" type="checkbox"/> ・否 |
| 教育プログラム・コース名 | 大阪大学先導的「口腔から全身への健康学」教育の高度化プログラム<br>異分野連携に資する歯科医学研究者養成実習<br>多職種連携に資するリサーチマインドを持った指導的歯科医療人養成コース<br>高齢者の総合診療に資する歯科医療人の育成実習  |   |  |  |
| 事業計画         | <p>大阪大学では、老年学研究会が中心となり、都市部と農村部において、70歳、80歳、90歳の方を計1200名登録し、健康長寿についてのコホート研究を行っている。歯学のみならず、医学系（老年内科学、看護学）、人間科学（社会学、心理学、運動学）の各研究科、地域の行政（保健師など）が参加している。</p> <p>大学院生や臨床研修医は、この共同研究に参加し、それぞれの分野の観点を学び、口腔機能のみならず、栄養摂取、内科的疾患、認知機能、運動機能の評価方法を実習する。</p> <p>また、学部生教育として、臨床実習生を対象に高齢者マネキンを用いた要介護高齢者歯科治療模擬体験実習を実施する。</p> <p>高齢者を対象とした総合診療と研究に必要な医療人や研究者との交流を図り、異分野連携に貢献する資質を涵養することを期待できる新規性及び独創性の高いプログラムである。</p>  |   |  |  |
| 成果           | <p>異分野連携に資する歯科医学研究者養成実習では、3名の大学院生が、1回6時間の実習を、延べ22回履修した。</p> <p>また、指導的歯科医療人養成コースでは、6名の臨床研修医が、1回6時間の実習を、延べ13回履修した。</p> <p>大学院生、研修医とも、高齢者の健康に重要な、栄養摂取、内科的疾患、認知機能、運動機能の評価方法を理解し、修得するとともに、収集したデータの入力、整理を行った。大学院生は、それに加えて統計解析も行った。</p> <p>6名の臨床研修医は、長野県の農村部において、各5日間、訪問歯科診療に同行し、診療を見学するとともに、上記のうち可能なものについてデータの収集を行った。</p> <p>要介護高齢者歯科治療模擬体験実習は6名の臨床実習生が希望受講し、要介護者高齢者マネキンを用いて歯科治療（口腔内検査、印象採得）を模擬的に実践し、診療時の要点などの解説およびフィードバックを行った。今後はさらに実習内容の充実を図ると同時に、受講対象者の拡大に努めたいと考えている。</p> |   |  |  |

|                              |   |
|------------------------------|---|
| <p>本プロジェクトに関連した業績、知財、受賞等</p> | <p>論文発表</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Yoshinaka M, Ikebe K, Uota M, Ogawa T, Okada T, Inomata C, Takeshita H, Mihara Y, Gondo Y, Masui Y, Kamide K, Arai Y, Takahashi R, Maeda Y. Age and sex differences in the taste sensitivity of young adult, young-old and old-old Japanese. <i>Geriatr Gerontol Int</i>. 2015. [Epub ahead of print]</li> <li>2. Okada T, Ikebe K, Kagawa R, Inomata C, Takeshita H, Gondo Y, Ishioka Y, Okubo H, Kamide K, Masui Y, Takahashi R, Arai Y, Thomson WM, Maeda Y. Lower Protein Intake Mediates Association Between Lower Occlusal Force and Slower Walking Speed: From the Septuagenarians, Octogenarians, Nonagenarians Investigation with Centenarians Study. <i>J Am Geriatr Soc</i>. 2015. 63(11):2382-7.</li> <li>3. Inomata C, Ikebe K, Okada T, Takeshita H, Maeda Y. Impact on Dietary Intake of Removable Partial Dentures Replacing a Small Number of Teeth. <i>Int J Prosthodont</i>. 2015. 28(6):583-5.</li> </ol> <p>研究発表</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 武下肇, 池邊一典, 猪俣千里, 魚田真弘, 三原佑介, 松田謙一, 小川泰治, 多田紗弥夏, 榎木香織, 八田昂大, 前田芳信. 生活機能が高く維持された高齢者における咬合力と認知機能との関連. 第124回日本補綴歯科学会. 2015年5月30日. 大宮.</li> <li>2. 三原佑介, 松田謙一, 池邊一典, 小川泰治, 榎木香織, 多田紗弥夏, 猪俣千里, 武下肇, 魚田真弘, 八田昂大, 前田芳信. 老年的超越と口腔関連QOLとの関連についての検討. 第124回日本補綴歯科学会. 2015年5月30日. 大宮.</li> <li>3. 久留島悠子, 池邊一典, 松田謙一, 榎木香織, 八田昂大, 山下元三, 村上伸也, 前田芳信. 口腔機能における遺伝因子と環境因子: 中高齢者の双子研究より. 第124回日本補綴歯科学会. 2015年5月30日. 大宮.</li> <li>4. 小川泰治, 魚田真弘, 八田昂大, 吉備政仁, 池邊一典, 前田芳信. 要介護高齢者の全身状態と口腔細菌叢との関連の検討. 第26回日本老年歯科医学会. 2015年6月14日. 横浜.</li> <li>5. 三原佑介, 松田謙一, 魚田真弘, 八田昂大, 山本雅章, 池邊一典, 小野高裕, 前田芳信. 後期高齢者の筋肉量・握力と咀嚼・嚥下機能との関係—SONIC Studyより—. 第26回日本老年歯科医学会. 2015年6月14日. 横浜.</li> <li>6. 八田昂大, 池邊一典, 三原佑介, 松田謙一, 榎木香織, 多田紗弥夏, 猪俣千里, 武下肇, 魚田真弘, 前田芳信. 後期高齢者の歯の喪失に関わる因子についての検討—SONIC Studyより—. 第26回日本老年歯科医学会. 2015年6月14日. 横浜.</li> <li>7. 魚田真弘, 池邊一典, 小川泰治, 松田謙一, 榎木香織, 岡田匡史, 猪俣千里, 武下肇, 三原佑介, 前田芳信. 縦断調査による80歳の味覚の関連因子—SONIC Studyより—. 第26回日本老年歯科医学会. 2015年6月14日. 横浜.</li> <li>8. Tada S, Allen F, Ikebe K, Zheng H, Shintani A, Maeda Y. Impact of the crown-root ratio on survival of abutment teeth. The 16th Meeting of the International College of Prosthodontics. Sep 17, 2015. Seoul, Korea.</li> <li>9. Matsuda K, Mihara Y, Hatta K, Ikebe K, Gondo Y, Nakagawa T, Kamide K, Masui Y, Ishizaki T, Maeda Y. Relationship between the psychological factor “Gerotranscendence” and Oral health-related Quality of life. The 12th annual meeting of the European College of Gerodontology. Oct 2, 2015. Belfast, Ireland.</li> <li>10. Enoki K, Matsuda K, Ikebe K, Murai S, Yoshida M, Maeda Y. Influence of contracting hypertension on loss of teeth among older people in a 10-year longitudinal study. The 12th annual meeting of the European College of Gerodontology. Oct 2, 2015. Belfast, Ireland.</li> <li>11. Tada S, Ikebe K, Okada T, Inomata C, Takeshita H, Mihara Y, Uota M, Gondo Y, Kamide K, Oguro R, Nakama C, Masui Y, Ishizaki Y, Arai Y, Maeda Y, Shintani A. Association between posterior occlusion and dietary intakes specific for atherosclerosis. The 12th annual meeting of the European College of Gerodontology. Oct 2, 2015. Belfast, Ireland.</li> <li>12. 八田昂大, 榎木香織, 松田謙一, 池邊一典, 前田芳信. 10年コホートにおける歯の喪失が高血圧の罹患に及ぼす影響. 日本補綴歯科学会関西支部総会・学術大会. 2015年11月8日. 神戸.</li> </ol> <p>知財、受賞等<br/>該当事項なし</p> |
| <p>事業費の使途</p>                | <p>消耗品<br/>介護歯科医療シュミレーターなど:1,895,789 円</p> <p>旅費<br/>国内旅費:487,966 円</p> <p>その他<br/>書籍など:200,685 円</p>   |

## 平成27年度 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 連携大学報告書

「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—」事業

|       |      |            |      |       |      |
|-------|------|------------|------|-------|------|
| 連携大学名 | 岡山大学 | 連携大学事業推進委員 | 窪木拓男 | 事務担当者 | 成本浩二 |
|-------|------|------------|------|-------|------|

|              | 責任者名簿   | 役職                                     | 役割   | 本報告書のホームページでの開示の可否 |
|--------------|---|--|--|--------------------|
| 事業組織         | 窪木拓男<br>森田 学<br>宮脇卓也<br>鳥井康弘<br>飯田征二<br>曾我賢彦  | 歯学部長<br>委員長<br>部会長<br>部門長<br>部長<br>副部長 | 事業責任者<br>教務委員会<br>臨床実習実施部会<br>卒後臨床研修センター歯科部門<br>医療支援歯科治療部<br>医療支援歯科治療部 | ☑・否                |
| 教育プログラム・コース名 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・特色ある医療支援歯学教育プログラム「口腔・全身健康実践」コース—周術期口腔管理・摂食嚥下機能回復・在宅歯科医療—</li> <li>・医療支援歯学教育コースワーク 1. 要介護高齢者を模したシミュレーターや老人介護・在宅介護施設を用いたPBL演習</li> <li>・医療支援歯学教育コースワーク 2. 岡山大学病院周術期管理センターを利用した高度医療支援周術期口腔機能管理実習</li> <li>・医療支援歯学教育コースワーク 3. 臨床講師等を利用した在宅介護・訪問歯科診療参加型学外臨床実習</li> </ul>   |  |  |                    |
| 事業計画         | <ol style="list-style-type: none"> <li>① 電子授業コンテンツを閲覧するオープンコースウェアを運用開始する。</li> <li>② 電子授業コンテンツ作成を開始し、蓄積する。</li> <li>③ シミュレーターや老人介護施設を利用した老人介護歯科演習を開始する。</li> <li>④ がん化学療法・周術期等の医療を支える口腔管理シンポジウムを開催する。</li> <li>⑤ 周術期管理歯科実習や在宅介護歯科実習を開始する。</li> <li>⑥ 当該分野における国際交流と広報を行う。</li> <li>⑦ 自己評価報告書の作成および外部評価委員会を開催する。</li> </ol>   |  |  |                    |
| 成果           | <ol style="list-style-type: none"> <li>① 講義電子コンテンツやホームページを格納し、連携大学等の学生や教員が閲覧できるようにサーバーを増強・整備した。また、視聴画面、視聴時間の記録表示、テスト機能、成績管理機能などの向上、改善を進め、来年度からの視聴システム利用に備えた。</li> <li>② 岡山大学歯学部主催の公開講座「医療支援歯学教育コースワーク【講義シリーズ1（生活習慣病と口腔）2（周術期医療）、3（在宅介護医療）】」を開催し、授業コンテンツの収録を行った。</li> <li>③ 要介護高齢者の歯科治療を想定して、臨床実習生（5年次生）を対象として、シミュレーターを用いた実習を行った。また、老人介護施設を用いたPBL演習は、4年次生を対象として行い、老人介護施設を訪問し、介護現場における歯科医療の課題について学生自身に課題を抽出させ、解決するための方法について学習させた。</li> <li>④ がん化学療法・周術期等の医療を支える口腔管理シンポジウムは上記②の医療支援歯学教育コースワーク（講義シリーズ2）に相当するものであり、歯科に限らず、多職種の講師にご講演をいただいた。</li> <li>⑤ 周術期管理歯科実習は、当院の周術期管理センターを利用して臨床実習生を対象として1人あたり5日間の実習を行った。また、在宅介護歯科実習は岡山大学歯学部臨床教授（講師）協力のもと、臨床実習生を1人あたり2日間地域医療機関へ派遣し、訪問実習を行った。</li> <li>⑥ MASCC/ISOO との連携を目的に、コペンハーゲンで交流を行った。</li> <li>⑦ 自己評価を行った。自己評価報告書を外部評価の資料とし、3月26日に外部評価委員会を開催予定である。</li> </ol> |  |  |                    |

本プロジェクトに関連した業績, 知財, 受賞等

論文・学会発表・講演会・シンポジウム等

【論文】

- ・下田 篤史, 宗 淳一, 足羽 孝子, 村田 尚道, 福田 智美, 小林 求, 鳥越 英次郎, 牧 佑歩, 杉本 誠一郎, 山根 正修, 豊岡 伸一, 大藤 剛宏, 三好 新一郎: 口腔・嚥下機能の管理 周術期管理センター導入による組織横断的な呼吸器外科周術期管理法. 胸部外科, 69: 20-24, 2015.
- ・村田尚道、前川享子、孫田哲郎、田尻絢子、細坪充裕、東倫子、神田ゆう子、小林幸生、野島靖子、森貴幸、山田智枝、宋本儒享、徳善貴大、皆木省吾、江草正彦: 摂食嚥下リハビリテーションに関する研修会の意識調査. 岡山歯学会雑誌, 34: 53-57, 2015.

【総説論文】

- ・村田尚道: 嚥下時における咽頭部の超音波検査法の開発. Bio Clinica, 30(12):1225-1229, 2015

【学会発表】

- ・武田 宏明, 白井 肇, 大塚 恵理, 塩津 範子, 鈴木 康司, 河野 隆幸, 杉本 恭子, 吉田 登志子, 村田 尚道, 山中 玲子, 曾我 賢彦, 宮脇 卓也, 窪木 拓男, 鳥井 康弘: 岡山大学病院歯科医師臨床研修における多職種連携診療及び在宅歯科医療研修の現状, 第34回日本歯科医学教育学会, 鹿児島, 2015. 7. 10-11
- ・園井教裕, 曾我賢彦, 室 美里, 山中玲子, 吉富愛子, 武田宏明, 杉本恭子, 前田あずさ, 窪木拓男: 大学病院を利用した高度医療支援・周術期口腔機能管理実習による緩和ケア教育の効果と課題, 第34回日本歯科医学教育学会, 鹿児島, 2015. 7. 10-11
- ・杉本恭子, 宮脇卓也, 武田宏明, 前田 茂, 曾我賢彦, 森田 学, 鳥井康弘, 窪木拓男. 岡山大学における臨床講師を利用した在宅介護・訪問歯科診療参加型学外臨床実習について: 第34回日本歯科医学教育学会, 鹿児島, 2015. 7. 10-11
- ・Naoki KOBAYASHI, Yoshihiko SOGA, Kazu HATANAKA, Kyoko MAEKAWA, Yuko KANDA, Eiko KOBAYASHI, Yumi FUJIWARA, Toshimitsu TANAKA, Kaoru MORITA, Kazuhiko MORITA: Importance of dental intervention as risk management for severe dementia patients. The 10th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress 2015, Chiang Mai, Thailand, 2015.10.19-22.
- ・Reiko YAMANAKA, Mami INOUE-MINAKUCHI, Yoshihiko SOGA, Aya YOKOI, Masayo SHIMURA, Hirotaka KOSAKI, Misato MURO, Kumiko NAWACHI, Manabu MORITA, Takuo KUBOKI, Seiji IIDA: Patients who undergo esophageal surgery require more dental treatment than Patients who undergo Cranial nerve surgery, Respiratory surgery, Gynecological surgery, Breast thyroid surgery. The 63th Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research, Fukuoka, Japan. 2015.10.30-31
- ・Misato Muro, Yoshihiko Soga, Kota Kataoka, Daisuke Ekuni, Seiji Iida, Manabu Morita: Bacterial substitution on the oral mucosa before and after hematopoietic cell transplantation: gene-level analysis by PCR-denaturing gradient gel electrophoresis. The 20th Annual Congress of Asia-Pacific Blood and Marrow Transplantation Group in Okinawa, Nago, Okinawa, Japan. 2015.10.30-11.1.
- ・室美里, 曾我賢彦, 片岡広太, 江國大輔, 飯田征二, 森田学: 造血幹細胞移植後におこる口腔粘膜上細菌叢の変化 -PCR-DGGE法を用いた解析-. 第38回日本造血細胞移植学会総会, 名古屋市, 2016. 3. 5
- ・志茂加代子, 工藤値英子, 曾我賢彦, 佐伯恭昌, 橋本倫子, 高橋郁名代, 前田嘉信, 三浦留美, 岩月啓氏, 谷本光音, 高柴正悟: 造血幹細胞移植期間中に下唇に発症した深在性真菌症に対する多職種連携による対応と経過 ~歯科衛生士の立場から~. 第38回日本造血細胞移植学会総会, 名古屋市, 2016. 3. 5
- ・松田友里, 川村夢乃, 安岡利香, 武田悠理子, 三島美鈴, 片山朋子, 小野佳子, 高橋郁名代, 曾我賢彦, 近藤英生, 藤井伸治, 前田嘉信: 造血細胞移植患者の咽頭痛の発生状況および粘膜障害との関連について. 第38回日本造血細胞移植学会総会, 名古屋市, 2016. 3. 5
- ・村田 尚道, 前川 享子, 東 倫子, 江草 正彦: ALS評価尺度と摂食嚥下障害の関連性. 第3回

日本難病医療ネットワーク学会, 仙台市, 2015. 11. 13-14.

- ・村田 尚道, 綾野 理加, 前川 享子, 東 倫子, 田尻 絢子, 細坪 充裕, 角谷 真一, 森 貴幸, 江草 正彦: グルコーストランスポーター1欠損症候群に伴う摂食嚥下障害の一症例. 第32回日本障害者歯科学会, 京都市, 2015. 11. 6-8
- ・村田尚道, 有岡享子, 神田ゆう子, 小林幸生, 森貴幸, 細坪充裕, 孫田哲郎, 江草正彦: 摂食嚥下リハビリテーションに関する研修会の意識調査. 第21回日本摂食嚥下リハビリテーション学会, 名古屋市, 2015. 9. 11-12
- ・村田 尚道, 前川 享子, 小林 幸生, 角谷 真一, 松永 匡司, 相坂 有一郎, 松尾 慶子, 森 貴幸, 皆木 省吾, 江草 正彦: 病院および高齢者施設職員を対象とした摂食嚥下リハビリテーション研修会に関するアンケート調査. 第26回日本老年歯科医学会, 横浜市, 2015. 6. 12-14.

#### 【講演】

- ・窪木拓男: 超高齢社会に歯学教育を如何に適応させるか. 第69回日本口腔科学会学術集会 ワークショップ4「医学部口腔外科における歯科医師臨床研修プログラムの充実」, 大阪, 2015. 5. 14.
- ・窪木拓男: 高齢者のインプラント治療. 第69回口腔科学会 シンポジウム2「インプラント治療の今後の展望」, 大阪, 2015. 5. 14.
- ・窪木拓男: 超高齢社会における口腔インプラント学会専門医の責務とは一最後まで患者に寄り添うために一. 第45回日本口腔インプラント学会学術大会専門医認定研修セミナー, 岡山, 2015. 9. 21.
- ・窪木拓男: 健康長寿社会を担う歯科医学教育改革のねらいと実施状況. 平成27年度連携シンポジウム (昭和大学開催) ミニシンポジウム「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革の推進-事業の進行状況と今後の展望-」, 東京都, 2015. 10. 22.
- ・窪木拓男: 高齢者の食を基盤とした健康増進, 介護予防, 虚弱予防. 九州大学大学院特別講義, 博多, 2015.11.05.
- ・窪木拓男: 超高齢社会に対応する歯学教育を如何に構築するか. 第1回 鹿児島国際歯学シンポジウム 特別講演, 鹿児島, 2016. 1. 30.
- ・窪木拓男: 超高齢社会における口腔インプラント治療のあり方一最期まで患者に寄り添うために一. 静岡県口腔インプラント研究会 第34回臨床講演会, 静岡, 2016. 3. 19.
- ・曾我賢彦: がん患者に歯科の専門性はどのように役立つか?一がん支持療法としての口腔内管理の意義と実際一, 信州大学がん患者等歯科医療連携講習会, 長野県松本市, 2015. 4. 5
- ・Yoshihiko SOGA : Advancing hospital medicine with dentistry: activities of dental staff, including dental hygienists, at Okayama University Hospital, International Conference: Outcomes Research and Translational Medicine in Oral Health Care, Taipei Medical University, Taipei, Taiwan, 2015. 5. 17
- ・Yoshihiko SOGA : Antimicrobial Resistance, MASCC/ISOO Continuing Education (CE) Course, MASCC/ISOO 2016 Annual Meeting, Copenhagen, Denmark, 2015. 6. 27
- ・曾我賢彦: 歯学生・歯科医療者が知っておくべき周術期口腔管理・がん口腔支持療法の実際一総論一, 医療支援歯学教育コースワーク (講義シリーズ) 第2回 歯学生・歯科医療関係者が知っておくべき周術期医療・がん支持療法の実際, 岡山市, 2015. 8. 22
- ・曾我賢彦: 病院医療における口腔感染管理の意義と実際, 第85回日本感染症学会西日本地方会学術集会/第58回日本感染症学会中日本地方会学術集会/第63回日本化学療法学会西日本支部総会, 奈良市, 2015. 10. 17
- ・曾我賢彦: 「MASCC/ISOO がん治療に伴う粘膜障害に対するエビデンスに基づいた臨床診療ガイドライン」について. 第9回日本口腔ケア協会学術大会, 松本市, 2015. 11. 15
- ・曾我賢彦: 歯科衛生士が広げる医療の幅一歯周病を切り口として一, 兵庫県歯科衛生士会 姫路・神崎支部, 播磨支部, 丹波篠山支部4支部合同研修会, 姫路市, 2015. 12. 5.
- ・曾我賢彦: 変わりつつある歯科医療一口の健康から全身の健康, そしてトータルヘルスケアへ一, 岡山県保険医協会第20回医療と介護を考える県民フォーラム, 岡山市, 2015.12.22
- ・曾我賢彦: 緩和ケアにおける口腔ケアの意義と実際, 岡山大学病院第79回緩和ケア勉強会, 岡山市, 2016. 1. 14
- ・曾我賢彦: 病院医療における口腔内管理の意義と実際一がん支持療法の一環として一. 広島市

民病院医局講演会，広島市，2016. 1. 15

- ・曾我賢彦：病院医療における口腔内管理の意義と実際—がん支持療法の一環として—。口腔ケア医科歯科連携Conference 藤田保健衛生大学，愛知県豊明市，2016. 1. 21
- ・曾我賢彦：造血幹細胞移植におけるチーム医療 口腔ケア：歯科医の立場から。第38回日本造血細胞移植学会総会，名古屋市，2016. 3. 5
- ・曾我賢彦：がん治療に伴う粘膜障害対策の国際的な潮流—MASCC/ISOO粘膜障害対策ガイドライン2013年改訂版。第1回日本がん口腔支持療法学会学術大会，名古屋市，2016. 3. 6
- ・曾我賢彦：歯科における地域包括ケア教育の現状と改善への提案。医療・介護従事者を対象とした長崎大学公開講座「多職種協働で守る口と体の健康」，長崎市，2016. 3. 19
- ・村田尚道：高齢者の摂食嚥下障害への対応について。摂食嚥下リハビリ研修会，高梁市，2016. 3. 8
- ・村田尚道：一生いい歯と付き合うために～障害児・者の歯科治療の現状と口腔ケア～。健康の森支援学校研修会，新見市，2015. 8. 7
- ・村田尚道：食べる機能の発達と障害への対応，食支援としての課題。NPO健康法人歯るる講演会，徳島市，2015. 7. 1
- ・村田尚道：摂食における支援，留意点について。岡山県立早島支援学校研修会，早島町，2015. 5. 13
- ・村田尚道：給食の場面における安全な摂食の指導について。岡山県立岡山東支援学校職員研修会，岡山市，2015. 6. 24
- ・村田尚道：摂食に関わる口腔機能の獲得・発達について。兵庫県歯科衛生士会総会後研修会，神戸市，2015. 6. 14
- ・村田尚道：摂食嚥下障害と評価。岡山大学公開講座 第11回摂食嚥下リハビリテーション従事者研修会初級コース，岡山市，2015. 4. 22
- ・村田尚道：摂食機能訓練その1，2。岡山大学公開講座 第11回摂食嚥下リハビリテーション従事者研修会上級コース，岡山市，2015. 10. 29, 11. 26
- ・村田尚道：誰でもやらなければいけない口腔ケアのコツ。第11回岡山PEG・栄養研究会，岡山市，2015. 4. 25
- ・村田尚道：摂食嚥下障害と口腔管理。岡山大学公開講座 岡山大学摂食嚥下障害研究会～食支援ネットワーク～，岡山市，2015. 5. 14
- ・村田尚道：摂食嚥下の科学 誤嚥性肺炎の予防。岡山スーパー大学院高齢者の心と身体のしくみ，疾患，予防の科学ゼミ，岡山市，2015. 8. 9
- ・村田尚道：摂食嚥下機能の基本。ベッドサイドの摂食嚥下スクリーニング検査とVE研修会，岡山市，2015. 10. 12, 2016. 1. 31
- ・村田尚道：在宅での摂食機能評価。死生学，健康増進・虚弱予防の概念に基づく講義シリーズ3（在宅介護医療）みんなで取り組む在宅医療，岡山市，2015. 12. 19
- ・園井教裕：口腔の健康と肺疾患-肺炎，COPD。健康増進・虚弱予防の概念に基づく講義シリーズ1（生活習慣病と口腔）みんなで取り組む生活習慣病，岡山市，2016. 1. 7
- ・窪木拓男：「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革」事業概要説明。第1回鹿児島国際歯学シンポジウム，鹿児島，2016. 1. 30

#### 【主催・共催講演会】

- ・医療支援歯学教育コースワーク（講義シリーズ）第1回 歯学生・歯科医療者が知っておくべき災害時医療の実際（2015. 8. 8，岡山大学歯学部第一講義室）（参加者：58名）
- ・医療支援歯学教育コースワーク（講義シリーズ）第2回 歯学生・歯科医療者が知っておくべき周術期医療・がん支持療法の実際（2015. 8. 29-30，岡山大学歯学部第一講義室）（参加者：164名）
- ・医療支援歯学教育コースワーク第3回 死生学，健康増進・虚弱予防の概念に基づく講義シリーズ1（生活習慣病と口腔）みんなで取り組む生活習慣病（2015. 12. 3, 10, 16, 2016. 1. 7, 9，岡山大学歯学部第一講義室，第一示説室）（参加者：120名）
- ・医療支援歯学教育コースワーク第4回 死生学，健康増進・虚弱予防の概念に基づく講義シリーズ3（在宅介護医療）みんなで取り組む在宅医療（2015. 12. 18, 19, 25, 2016. 1. 14，岡山大学歯学部第一講義室）（参加者：245名）

|        |   |
|--------|---|
|        | <p>【主催シンポジウム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年度在宅・訪問歯科診療教育シンポジウムー在宅訪問歯科診療教育の実践ー（2015. 9. 24, 岡山大学歯学部第一講義室）（参加者：169名）</li> <li>・平成27年度在宅・訪問歯科診療教育シンポジウムー岡山大学歯学部における在宅・歯科訪問診療教育ー（2016. 3. 13, 岡山大学歯学部第一講義室）（参加者：84名）</li> </ul> <p>知財<br/>なし</p> <p>受賞等<br/>なし</p>   |
| 事業費の使途 | <p>設備備品費</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ e-learningコンテンツ動画編集用デスクトップPC</li> </ul> <p>消耗品</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文房具, 講演DVD送付用封筒</li> </ul> <p>旅費</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本事業に関連した学会への参加旅費, 離島実習参加旅費</li> </ul> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本事業推進のための特任助教および, 事務員への人件費</li> <li>・ 本事業成果公開のためのホームページ開設, 保守管理費用</li> <li>・ 公開講座開催費</li> </ul> |

## 平成27年度 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 連携大学報告書

「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—」事業

|       |      |            |       |       |       |
|-------|------|------------|-------|-------|-------|
| 連携大学名 | 九州大学 | 連携大学事業推進委員 | 西村 英紀 | 事務担当者 | 内田 克彦 |
|-------|------|------------|-------|-------|-------|

|              | 責任者名簿   | 役職   | 役割  | 本報告書のホームページでの開示の可否                     |
|--------------|---|--|---|--|
| 事業組織         | 平田 雅人<br>高橋 一郎<br>中西 博<br>西村 英紀<br>中村 誠司<br>山下 喜久<br>重村 憲徳  | 学部長<br>副研究院長<br>副研究院長<br>教授<br>教授<br>教授<br>准教授 | 本プログラムの本学部総責任者。<br>新設科目の立ち上げ及び他大学プログラムの連携について総指揮を行う。<br>本学部カリキュラムの総責任者。本プログラムの運用に助言する。<br><br>本学部新設科目講義担当者。<br><br>本プログラム本学部の新設科目世話人及び他大学プログラム連携責任者。<br>本学部臨床実習責任者。<br><br>本学部新設科目講義担当者。<br><br>本学部新設科目講義担当者。 | <input checked="" type="checkbox"/> ・否 |
| 教育プログラム・コース名 | 九州大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム<br>口腔健康科学特論  |  |   |  |
| 事業計画         | 九州大学歯学研究院が重点領域と位置付ける、「口腔健康科学」「組織の再生・再建研究」のうち、本プログラムと密接に関連した、「口腔健康科学」分野のトピックスを課題解決型の授業として新たに導入した。<br>「口腔健康科学特論」5年次集中講義、時期：臨床実習開始直前 61名<br><br>第1回：味覚と肥満<br>(口腔生理学：重村准教授)<br>第2回：咀嚼と肥満<br>(藤瀬多佳子非常勤講師)<br>第3回：肥満・糖尿病の疫学<br>(口腔予防医学：山下教授)<br>第4回：久山町研究・医学統計<br>(口腔予防医学：山下教授)<br>第5回：肥満と睡眠時無呼吸症候群<br>(口腔総合診療科：津田助教)<br>第6回：肥満のバイオロジー<br>(歯周病学：西村教授)<br>第7回：肥満・糖尿病の関連性の多様性の理解と解決<br>(歯周病学：西村教授)<br>第8回：口腔疾患と認知症<br>(歯科薬理学：中西教授)<br>本講義内容はビデオ録画し、コンテンツは各連携大学において視聴が可能なように、編集した。 |  |   |  |

|                              |   |
|------------------------------|---|
|                              | <p>また、開講の詳細は10月に開催された27年度連携大学シンポジウム（10月22日～23日：昭和大学）において報告した。</p>   |
| <p>成果</p>                    | <p>すべての講義をビデオ録画し、連携大学で視聴が可能となるよう編集した。<br/> すべての授業後に学生アンケートを実施し、結果を昭和大学で開催された27年度シンポジウムで報告した。<br/> 次年度以降も開講することを決定した。</p>  |
| <p>本プロジェクトに関連した業績、知財、受賞等</p> | <p>論文・研究発表</p> <p><b>【栄養の経口摂取と摂食行動関連】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Modulation of sweet taste sensitivities by endogenous leptin and endocannabinoids in mice. Niki M, Jyotaki M, Yoshida R, Yasumatsu K, Shigemura N, DiPatrizio NV, Piomelli D, Ninomiya Y. <i>J Physiol</i>, 593:2527-2545, 2015.</li> <li>2. Leptin Suppresses Mouse Taste Cell Responses to Sweet Compounds. Yoshida R, Noguchi K, Shigemura N, Jyotaki M, Takahashi I, Margolskee RF, Ninomiya Y. <i>Diabetes</i>, 64:3751-3762, 2015.</li> </ol> <p><b>【医学統計関連】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. Serum antibody to Porphyromonas gingivalis and periodontitis progression: the Hisayama Study. Takeuchi K, Furuta M, Takeshita T, Shibata Y, Shimazaki Y, Akifusa S, Ninomiya T, Kiyohara Y, Yamashita Y. <i>J Clin Periodontol</i>, , doi: 10.1111/jcpe.12431. [Epub ahead of print], 2016.</li> <li>4. Tooth loss and metabolic syndrome in middle-aged Japanese adults. Furuta M, Liu A, Shinagawa T, Takeuchi K, Takeshita T, Shimazaki Y, Yamashita Y. <i>J Clin periodontal</i>, doi: 10.1111/jcpe.12523. [Epub ahead of print], 2016..</li> </ol> <p><b>【睡眠時無呼吸関連】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5. Oral health under use of continuous positive airway pressure and interest in alternative therapy in patients with obstructive sleep apnoea: a questionnaire-based survey. V Tsuda H, Moritsuchi Y, Higuchi Y, Tsuda T. <i>Gerodontology</i>, doi: 10.1111/ger.12184. [Epub ahead of print], 2016.</li> </ol> <p><b>【肥満・糖尿病関連】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>6. Protection from diet-induced obesity and insulin resistance in mice lacking CCL19-CCR7 signaling. Sano T, Iwashita M, Nagayasu S, Yamashita A, Shinjo T, Hashikata A, Asano T, Kushiyama A, Ishimaru N, Takahama Y, Nishimura F. <i>Obesity</i>, 23:1460-1471, 2015.</li> <li>7. DPP-4 inhibitor anagliptin exerts anti-inflammatory effects on macrophages, adipocytes, and mouse livers by suppressing NF-κB activation. <i>Am J Physiol Endocrinol Metab</i>, doi: 10.1152/ajpendo.00553.2014. [Epub ahead of print], 2015.</li> </ol> <p><b>【認知機能関連】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>8. Lessons from Microglia Aging for the Link between Inflammatory Bone Disorders and Alzheimer's Disease. Wu Z, Nakanishi H. <i>J Immunol Res</i>. 2015;2015:471342. doi: 10.1155/2015/471342.</li> <li>9. The Critical Role of Proteolytic Relay through Cathepsins B and E in the Phenotypic Change of Microglia/Macrophage. Ni J, Wu Z, Peterts C, Yamamoto K, Qing H, Nakanishi H. <i>J Neurosci</i>, 35(36):12488-12501, 2015.</li> </ol> <p>知財</p> <p>受賞等</p> |

|        |   |
|--------|---|
| 事業費の使途 | <p>消耗品</p> <p>単3アルカリ乾電池 1箱<br/>アラームセキュリティ 1個<br/>オーディオケーブル KM-A1-36K 1本<br/>ドッジファイル等消耗品<br/>ポータブルHDD 1台</p> <p>旅費</p> <p>課題解決型医療人養成事業定例シンポジウム（昭和大学：東京）参加 15名<br/>課題解決型医療人養成事業外部評価委員会（岡山大学）参加 2名<br/>第26回日本疫学会学術総会（米子）出席 1名<br/>日本学術会議公開シンポジウム 参加 4名<br/>口腔外科学会年次総会 参加 1名</p> <p>その他</p> <p>備品 コンテンツ作成マシン 3eRecⅢ-w 一台<br/>カメラ 一式</p> |
|--------|---|

## 平成27年度 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 連携大学報告書

「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革－死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築－」事業

|       |      |            |      |       |       |
|-------|------|------------|------|-------|-------|
| 連携大学名 | 長崎大学 | 連携大学事業推進委員 | 澤瀬 隆 | 事務担当者 | 馬場 敬三 |
|-------|------|------------|------|-------|-------|

|              | 責任者名簿  | 役職  | 役割  | 本報告書のホームページでの開示の可否 |
|--------------|--|---|---|--------------------|
| 事業組織         | 澤瀬 隆<br>齋藤 俊行<br>角 忠輝  | 教授(口腔インプラント学)<br>教授(口腔保健学)<br>教授(総合歯科臨床教育学) | 歯学教育改革コンソーシアム事業推進委員会委員<br>歯学教育改革コンソーシアム実習コーディネーター<br>歯学教育改革コンソーシアム教育カリキュラム開発・編成担当 | ☑・否                |
| 教育プログラム・コース名 | 長崎大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム・離島歯科口腔医療・保健・福祉学実習   |   |   |                    |
| 事業計画         | <p>長崎県は全国で最も多くの離島を有し、離島地域の高齢化率は34%を超え、わが国の超高齢社会がすでに具現化されている。健康長寿社会の貢献マインドを涵養するにあたり、この地は絶好の教育現場であると言える。長崎大学歯学部では、離島等の地域歯科医療を担う歯科医師養成を目的として、宿泊施設を有する「長崎大学歯学部離島歯科保健医療研究所（五島列島五島市）」を拠点として、医学部、薬学部と共に多職種連携による「地域医療一貫教育」を行う。すなわち、医歯薬の医療系3学部の共修で、実際に学生が離島に赴き、滞在し、離島医療を実体験しながら医療・保健・福祉学を学ぶことで、在宅介護実習と医科歯科連携を実践する。</p> <p>また本年度は初めての試みとして、他大学選択履修者を対象とした同実習をサマースクールとして実施する。</p> <p>平成27年度の事業計画は以下のとおりである。</p> <p>①8月～9月 他大学選択履修者を対象としたサマースクールを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習方法：本年度は1クール4名程度の他大学選択履修者に対し、連続5日間五島市にて滞在型実習を実施（2クール計8名）。病棟に始まり、一般歯科まで重症度・介護度が軽くなるように実習施設を配し、さまざまな身体状況の方々の医療介護の現場で歯科医として求められるものはなにかを学生に考察させる。</li> <li>月AM 離島実習全般/口腔嚥下ケア講義（長崎大学歯学部離島歯科保健医療研究所）</li> <li>月PM 病棟嚥下回診（五島中央病院病棟）</li> <li>火 特別養護老人ホーム 介護と口腔嚥下ケア（只狩荘）</li> <li>水 通所介護 介護と口腔嚥下ケア（社会福祉協議会富江支所デイサービス）</li> <li>木 歯科医院 2次離島・往診等（岐宿歯科診療所、久賀歯科診療所）</li> <li>金AM グループディスカッション（長崎大学歯学部離島歯科保健医療研究所）</li> </ul> <p>②10月～3月 本年度診療参加型臨床実習開始</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習方法：1組4～5名ずつ、H27年10月から11クールに分かれて、連続5日間五島市にて滞在型実習を長崎大学臨床実習生に対して実施（年間計51名）</li> <li>・実習項目、到達目標のガイダンスとディスカッション</li> <li>・離島歯科口腔医療実習：民間歯科医院による往診に帯同し、見学ならびに補助を行う。</li> <li>・離島福祉施設実習：五島市社会福祉協議会「デイ・はまゆう」ならびに要介護施設只狩荘にて介護スタッフの補助、口腔ケアの実践を行い、高齢者歯科保健に必要な知識、態度、技能を学ぶ。また福祉現場での介護スタッフとの連携を体験する。</li> <li>・離島保健医療実習：五島市健康政策課・長寿介護課における、行政が実施している保健予防事業への参加を通じて公衆衛生上、必要な知識、態度、技能を学ぶ。</li> <li>・グループディスカッション：各学生のポートフォリオを基に同クールに参加の医学部、薬学部学生とともにグループディスカッションを行い、互いの学びの共有、問題点の抽出を行う。</li> </ul> <p>③10月 歯学部講演会「生と死に関わる歯科医療－いのちと向き合っ－」を開催</p> <p>④10月 平成27年度連携シンポジウム（昭和大学）ならびに同事業推進委員会に出席</p> |   |   |                    |

|                       |   |                   |    |         |               |    |          |             |    |         |                   |    |          |
|-----------------------|---|-------------------|----|---------|---------------|----|----------|-------------|----|---------|-------------------|----|----------|
|                       | <p>⑤ 2月 高齢者歯科講演会（長崎大学歯学部主催）を本プログラムのコンテンツとして収録</p> <p>⑥ 3月 平成27年度下五島地区離島医療教育研究会（五島市）にて実習指導報告</p>   |                   |    |         |               |    |          |             |    |         |                   |    |          |
| 成果                    | <p>① 8月3日～7日 離島医療サマースクール第1クール実施（岡山大2名、昭和大2名）<br/>9月7日～11日 離島医療サマースクール第2クール実施（岡山大3名）</p> <p>② 10月～平成28年3月 本年度診療参加型臨床実習</p> <p>③ 10月9日 歯学部講演会「生と死に関わる歯科医療 ーいのちと向き合っー」（演者：医療法人恵祐会 新小文字歯科クリニックいのちのケアセンター長 武田康男先生）を開催し、本プログラムのコンテンツとして収録</p> <p>④ 10月22日～23日 平成27年度連携シンポジウム（昭和大学）ならびに同事業推進委員会に出席（澤瀬、角）</p> <p>④ 2月6日 高齢者歯科講演会（長崎大学歯学部主催）を本プログラムのコンテンツとして収録</p> <p>⑥ 3月15日 平成27年度下五島地区離島医療教育研究会（五島市）にて実習指導報告（角、小山）</p>  |                   |    |         |               |    |          |             |    |         |                   |    |          |
| 本プロジェクトに関連した業績、知財、受賞等 | <p>論文・研究発表</p> <p>1. 角 忠輝：平成27年度長崎大学離島歯科保健医療サマースクールを終えて、文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム（健康長寿社会の実現に貢献する歯科医療人養成）選定事業健康長寿社会を担う歯科医学教育改革ー死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築ー平成27年度連携シンポジウム，東京，10月 {プログラム・抄録集，p 8，2015}</p> <p>2. 歯学部臨床実習生による平成27年度離島医療保健実習報告 角忠輝、小山善哉、齋藤俊行、澤瀬隆（於 平成27年度下五島地区離島医療教育研究会 五島市）</p> <p>知財<br/>無し</p> <p>受賞等<br/>無し</p>  |                   |    |         |               |    |          |             |    |         |                   |    |          |
| 事業費の使途                | <p>設備備品費<br/>嚙下造影対応チェア（コンバーVFX，タカノ株式会社 タカノハートワークス製） 499,932円<br/>平成27年度離島医療保健実習において、急性期病院（五島中央病院）、老人保健施設訪問診療（只狩荘）および在宅診療にて、本チェアを当該施設に持ち込み、口腔ケアおよび摂食・嚙下リハビリテーション教育（見学、介助）に使用した。</p> <p>旅費：国内旅費</p> <table border="0"> <tr> <td>サマースクール実施に係る事前打合せ</td> <td>9名</td> <td>63,292円</td> </tr> <tr> <td>サマースクール実施（引率）</td> <td>7名</td> <td>261,988円</td> </tr> <tr> <td>学生向け講演会講師招聘</td> <td>1名</td> <td>24,440円</td> </tr> <tr> <td>シンポジウム及び事業推進委員会参加</td> <td>2名</td> <td>134,050円</td> </tr> </table> <p>謝金：サマースクールにおける実習施設 6件 74,800円<br/>学生向け講演会講師 1名 11,000円</p> <p>消耗品：サマースクール実施に係る消耗品類一式 66,521円</p> <p>役務：サマースクール実施に係る寝具借上げ等一式 4,417円</p> | サマースクール実施に係る事前打合せ | 9名 | 63,292円 | サマースクール実施（引率） | 7名 | 261,988円 | 学生向け講演会講師招聘 | 1名 | 24,440円 | シンポジウム及び事業推進委員会参加 | 2名 | 134,050円 |
| サマースクール実施に係る事前打合せ     | 9名  | 63,292円           |    |         |               |    |          |             |    |         |                   |    |          |
| サマースクール実施（引率）         | 7名  | 261,988円          |    |         |               |    |          |             |    |         |                   |    |          |
| 学生向け講演会講師招聘           | 1名  | 24,440円           |    |         |               |    |          |             |    |         |                   |    |          |
| シンポジウム及び事業推進委員会参加     | 2名  | 134,050円          |    |         |               |    |          |             |    |         |                   |    |          |

## 平成27年度 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 連携大学報告書

「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革－死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築－」事業

|       |       |            |       |       |       |
|-------|-------|------------|-------|-------|-------|
| 連携大学名 | 鹿児島大学 | 連携大学事業推進委員 | 松口 徹也 | 事務担当者 | 中村 友貴 |
|-------|-------|------------|-------|-------|-------|

|              | 責任者名簿  | 役職                      | 役割   | 本報告書のホームページでの開示の可否 |
|--------------|--|-------------------------|--|--------------------|
| 事業組織         | 松口 徹也<br>於保 孝彦<br>田口 則宏  | 歯学部長<br>副学部長<br>臨床教育部会長 | 事業責任者<br>講義担当（カリキュラム、評価等）<br>体験型実習担当（企画、評価等） | Ⓐ・否                |
| 教育プログラム・コース名 | 鹿児島大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム<br>「奄美大島・与論島における口腔と全身の健康学コース」  |                         |  |                    |
| 事業計画         | <p>【目的】住民の高齢化と医療過疎の問題を抱える地域・離島における歯科診療の実態を理解させることで、地域のニーズに応じた包括的歯科医療を推進できる歯学生・歯科医療人を養成する。</p> <p>【計画】</p> <p>1) 本年度から、「奄美大島・与論島における口腔と全身の健康学コース」のタイトルで講義および体験型実習（奄美大島、与論島、種子島、徳之島、沖永良部島、屋久島への派遣型歯科医療実習）形式の教育コースを歯学部生対象に開講する。高齢化と医療過疎の問題を抱えたこれらの島々をモデル地域として、地域医療を大切にする医療人マインドに富んだ歯学部学生の育成を図る。この教育コースの対象学生は、本学歯学部生のみでなく、ビデオ録画を利用したe-learning形式の授業と、派遣型歯科医療実習への参加募集によって、本事業の他の連携大学歯学部生にも受講可能とする。</p> <p>2) 介護歯科医療シミュレーターを歯学部学生臨床実習用スキルラボに導入し、より実践に即した高齢者歯科医療の臨床実習の場を実現する。</p> <p>3) 本年度に、グローバルな健康長寿を実現する歯学教育と臨床をテーマとしたシンポジウムを開催する。本シンポジウムには本事業の参加大学・協力施設と、鹿児島大学歯学部と学術協定を結んでいる東南アジアの歯科大学からもシンポジストを招聘し、学内外からの参加者を求めるオープン形式の国際シンポジウムとする。</p> |                         |  |                    |
| 成果           | <p>【平成27年度の活動状況】</p> <p>1) 特色ある医療支援歯学教育プログラム「奄美大島・与論島における口腔と全身の健康学コース」の実施</p> <p>① 講義：鹿児島大学歯学部生を対象に離島・地域歯科医療に関する90分 X 7回の講義を行った。一部の講義は、鹿児島大学医学部地域医療学分野にも協力をいただいた医科歯科教育連携の形式で行った。主な講義内容をビデオ録画し、e-learning教材として本事業の他の連携大学歯学部生にも受講可能とした。</p> <p>② 体験型実習：平成27年8～9月に、与論島での5日間の実習を3クール行った。鹿児島大学以外にも岡山大学から3名、九州大学から2名の歯学部生の参加があり、実習後のアンケートでも受講者から高い評価を得た。</p> <p>2) スキルラボの充実<br/>高齢者歯科医療の実習に用いる目的で介護歯科医療シミュレーターを購入し、学生が自由に使えるスキルラボに設置した。</p>  |                         |  |                    |

|                              |  |
|------------------------------|--|
|                              | <p>3) 鹿児島国際歯学シンポジウムの開催<br/>平成28年1月30日に鹿児島大学桜ヶ丘キャンパス内鶴陵会館大ホールで、国際シンポジウムを開催した。国内外から7名のシンポジストを迎え、「グローバルな健康長寿を実現する歯学教育と臨床を考える」をテーマに、第Ⅰ部「超高齢社会における地域歯科医療のあり方」と第Ⅱ部「東南アジアにおける歯学教育の現状と展望」の2部構成のシンポジウムを行い、学内外から149名の参加者があった。参加者の事後アンケートでも高い評価を得た。</p> <p>4) 事業シンポジウムへの参加<br/>平成27年7月（岡山）岡山大学シンポジウム：派遣2名（准教授1、講師1）<br/>平成27年10月（東京）昭和大学シンポジウム：派遣1名（教授1）</p>  |
| <p>本プロジェクトに関連した業績、知財、受賞等</p> | <p>論文・研究発表</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第34回日本歯科医学教育学会総会及び学術大会，2015年07月，鹿児島市シンポジウムⅢ 「地域医療における人材育成の現状と展望」企画（座長：田口則宏）</li> <li>2. 第34回日本歯科医学教育学会，国内会議，2015年07月，鹿児島市歯学部学生・研修歯科医の専門性に関する意識調査</li> <li>3. 第34回日本歯科医学教育学会，国内会議，2015年07月，鹿児島市大学生の口腔に対する意識の高さと歯の形態の認知度との関連について</li> </ol> <p>刊行物</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「第1回鹿児島国際歯学シンポジウム」講演抄録集・報告記</li> <li>2. 「地域・離島歯科診療教育」小冊子</li> </ol> <p>知財<br/>なし</p> <p>受賞等<br/>なし</p> |
| <p>事業費の使途</p>                | <p>設備備品</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護歯科医療シミュレーター</li> </ul> <p>消耗品</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奄美大島・与論島における口腔と全身の健康学コース開講準備のための消耗品</li> </ul> <p>旅費</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・離島歯科医療実習に係わる旅費</li> <li>・シンポジウム出席のための旅費</li> <li>・鹿児島国際歯学シンポジウムのための講師招聘旅費</li> </ul> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポートフォリオ管理システム機能改修</li> <li>・鹿児島国際歯学シンポジウムポスター、抄録集印刷費</li> </ul>                       |

## 平成27年度 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 連携大学報告書

「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—」事業

|       |        |            |      |       |      |
|-------|--------|------------|------|-------|------|
| 連携大学名 | 岩手医科大学 | 連携大学事業推進委員 | 城 茂治 | 事務担当者 | 近藤 敬 |
|-------|--------|------------|------|-------|------|

|              | 責任者名簿  | 役職   | 役割   | 本報告書のホームページでの開示の可否                     |
|--------------|--|--|--|--|
| 事業組織         | 三浦廣行<br>城 茂治<br>佐藤和朗<br>石崎 明<br>野田 守<br>岸 光男<br>阿部晶子<br>玉田泰嗣   | 歯学部長<br>歯学部教授<br>歯学部教授<br>歯学部教授<br>歯学部教授<br>歯学部教授<br>歯学部准教授<br>歯学部助教 | プロジェクト統括<br>教育コンソーシアム事業推進委員<br>実習コーディネーター<br>カリキュラム開発・編成担当<br>実習コーディネーター<br>実習コーディネーター<br>実習コーディネーター<br>実習コーディネーター | <input checked="" type="checkbox"/> ・否 |
| 教育プログラム・コース名 | 入院時・災害時のベッドサイドにおける食支援と口腔ケアに関する教育の高度化プログラム  |  |  |  |
| 事業計画         | <p>本教育プログラムの目的は非常時（入院時・災害時）において、他職種連携の上で専門的な口腔のリハビリテーション、ケア、管理を行い、ベッドサイドにおける食べる機能の支援と感染防御を実践できる研究能力を持った指導的な口腔機能の専門家を養成することにある。</p> <p>平成27年度は、前年度に実施したトライアル実習や適宜調整された計画通りに本教育プログラムを実施する。また、各実習コースの実施中ならびに終了時に本年度の教育成果を各コース責任者とともに分析し、次年度以降の更なる成果が得られるような改善のための問題点を抽出するとともに、それに応じた対策をとる。加えて、本年度教育内容の反省点をもとに平成28年度に向けた実質的な新規大学院シラバス案を作成し、実りある教育プログラムの実施に向けて準備を進める予定である。</p>  |  |  |  |
| 成果           | <p>1. 「被災地口腔ケア・食支援実習」</p> <p>①平成26年度トライアル実習の評価</p> <p>1) アンケート結果</p> <p>トライアル実習に参加した大学院生と非参加大学院生に対して、実習終了1週後に同様のアンケート調査を実施したところ、参加した大学院生は、「被災地の復興状況をどう思うか」の質問に対して、「わからない」と回答した者がおらず、復興状況を明確に評価していた。一方、「順調である」と回答した者と「順調でない」と回答した者の割合は、ほぼ同じであり、これは非参加者の回答分布と同様であった。また、「被災地の歯科保健医療供給状況」に関する質問では、参加した者の方が有意に被災地の歯科医療供給が不足していると感じていた。</p> <p>2) KJ法プロダクト</p> <p>実習最終日に行った「被災地における歯科保健医療の問題点」に対するKJ法による抽出では「歯科健康調査への受診率の年次低下」が、重要性、緊急性とも最も高い課題であると認識された。また、重要性の高い課題としては「高度医療機関の不足」、「歯科保健意識の低さ」などが抽出された。</p> <p>3) 自由記載</p> <p>「調査に参加してことは研修として意義があると思うが、“被災地”特有の事項を見いだすのは難しかった（すでにある程度の設備が整っている）。住民の口腔内も被災地だからと言うより、もともとの地域特性ではないかと感じた。」といった記載があった。</p> <p>以上より、被災地における実習は参加した大学院生の被災地に関する意識に影響を及ぼし、支援への動機付けの効果が高いと考えられた。</p> <p>②平成27年正規選択科目としての実習</p> <p>平成27年には大学院の選択コースとして正規の課程に組み入れ、5月期1日と11月期の1泊2日の計3日で4名の大学院生が実習に参加した。実習の内容は平成26年度のトライアルと同</p> |  |  |  |

|                              |   |
|------------------------------|---|
|                              | <p>様に、</p> <p>① 被災地における健康調査への参加<br/> ② 被災地の復興状況の視察<br/> ③ 被災地におけるミニシンポジウムへの参加（地元歯科医師、保健師の参加）<br/> とした。</p> <p>ただし、日程の都合上、KJ法による口腔保健関連問題の抽出は割愛した。<br/> 本年はアンケート調査などのフィードバックは行っていないが、参加者の感想などから、教育効果は高いことが認識された。</p> <p>2. 「摂食嚥下リハビリテーション・口腔ケア実習」の実習を下記の通り実施した。<br/> 第1回（予定）：3月23日（水） 17時～21時<br/> 摂食嚥下のメカニズムと障害、診察法、スクリーニングテスト、精密検査<br/> 17時～17時5分 開会挨拶<br/> 17時5分～17時15分 プレアンケート<br/> 17時15分～18時10分 摂食嚥下概論、メカニズム<br/> 18時15分～19時10分 摂食嚥下障害の診察、嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査<br/> 19時20分～20時10分 スクリーニングテスト、嚥下内視鏡検査実習、吸引実習<br/> 20時20分～21時 まとめ、質疑応答、ポストアンケート</p> <p>第2回（予定）：3月24日（木） 17時～21時<br/> 栄養と介護<br/> 17時～17時5分 開会挨拶<br/> 17時5分～17時15分 プレアンケート<br/> 17時15分～18時10分 栄養概論、介護概論、口腔ケア概論<br/> 18時15分～19時10分 口腔ケア実習<br/> 19時20分～20時10分 介護実習<br/> 20時20分～21時 まとめ、質疑応答、ポストアンケート</p> <p>3. 「栄養サポートチーム（NST）・緩和ケア実習」<br/> 本学緩和医療学科の木村祐輔教授による、「緩和ケア」についての講義を行った。講義の中では、緩和ケアの歴史から、緩和ケアの概念、本学緩和ケアチームの活動についての紹介があり、24名の大学院生が聴講した。</p> |
| <p>本プロジェクトに関連した業績、知財、受賞等</p> | <p>論文・研究発表<br/> ①岸 光男、松井美樹、相澤文恵、小松 元、及川陽次、石崎 明、三浦廣行：岩手医科大学歯学部大学院教育における次世代の復興支援人材育成の試み。第19回日本歯科医療管理学会東北支部総会・学術大会 2015年11月8日、秋田。<br/> ②岸 光男：口腔からの健康の復興。シンポジウム「次世代復興担い手の育成戦略-国際的学際的視点から-」。第4回東北未来創りサマースクール 2015年8月8日、盛岡。</p> <p>知財<br/> 特記事項無し<br/> 受賞等<br/> 特記事項無し</p>  |
| <p>事業費の使途</p>                | <p><b>旅費 946,141円</b><br/> 【国内旅費】946,141円<br/> 医療支援歯学教育コースワーク（講義シリーズ）および意見交換会 8月8日 岡山<br/> 教員 3名 131,040円×1名+78,880円×1名+84,080円×1名=294,000円（2泊3日）<br/> 医療支援歯学教育コースワーク（講義シリーズ）および意見交換会 8月8日 岡山<br/> 教員 2名 63,530円×1名（2泊3日）+78,880円×1名（1泊2日）=142,410円<br/> 平成27年度連携シンポジウム 10月 東京<br/> 教員 4名 47,780円×2名（2泊3日）+44,780円×1名（2泊3日）+31,680円×1名（1泊2日）=172,020円<br/> 教育プログラム 11月 釜石・大槌（岩手）</p>  |

学生 2名 14,200円×2名=28,400円 (1泊2日)  
交通運搬費 47,440円 (盛岡⇄釜石市・大槌町 移動分)  
3,650円 (現地 移動分)  
医療支援歯学教育コースワーク (講義シリーズ) および意見交換会 1月 岡山  
教員 1名 84,080円×1名 (1泊2日) =84,080円  
高齢者歯科講演会「これからの高齢者歯科学と医療を考える」 2月 長崎  
教員 2名 121,200円×1名+52,941円×1名=174,141円 (2泊3日)

**謝金 38,979円**

教育プログラムにかかる外部講師謝金 及川 陽次 (開業医) 38,979円

**会議費 24,840円**

教育プログラムかかるシンポジウム等用会議室使用料 24,840円

**設備備品費 1,620,000円**

課題解決型在宅診療教育用高齢者シミュレーター DR-MOMO 1,620,000円

## 平成27年度 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 連携大学報告書

「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—」事業

|       |      |            |      |       |      |
|-------|------|------------|------|-------|------|
| 連携大学名 | 日本大学 | 連携大学事業推進委員 | 前野正夫 | 事務担当者 | 鈴木輝一 |
|-------|------|------------|------|-------|------|

|              | 責任者名簿   | 役職                 | 役割  | 本報告書のホームページでの開示の可否 |
|--------------|---|--------------------|---|--------------------|
| 事業組織         | 前野正夫<br>磯川桂太郎<br>植田耕一郎  | 歯学部長<br>学務担当<br>教授 | 歯学教育改革コンソーシアム事業推進委員会委員<br>歯学教育改革コンソーシアム教育カリキュラム開発・編成担当<br>歯学教育改革コンソーシアム実習コーディネーター | 可・否                |
| 教育プログラム・コース名 | 日本大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム<br>アドバンスト歯科学講義・実習—摂食機能療法学  |                    |   |                    |
| 事業計画         | <p>1. 第6学年卒前教育の摂食機能療法学・高齢者歯科学実習カリキュラムの見直し：</p> <p>①. 第6学年への実習終了後アンケートの実施：<br/>次年度以降の実習カリキュラムに反映することを目的として平成27年度前期（5～7月）に実施した6年生の実習講義・実習内容について、実習後にアンケート（複数回答・自由記載可とし、実習講義・実習について学生自身についての質問と実習内容・教員への評価、口腔機能管理模型に関する意見）を行う。</p> <p>②. 平成27年度における実習カリキュラムの再検討：<br/>平成26年度に実習内容を再編成し、平成27年度では変更した内容の基礎実習・臨床実習を行う。基礎実習では従来の口腔ケア・嚥下内視鏡実習・嚥下間接訓練について、患者を想定した学生同士の相互実習のほか、開発した口腔機能管理模型を使用した治療計画の立案とプレゼンテーション、グループディスカッションを実施する。また、基礎実習後にOSCE形式の実習試験を行い、学生の理解度を評価する。臨床実習は、診療室や日本大学病院、特別養護老人ホームへの病棟往診の見学を行う。実習・実習試験終了後に学生にアンケート（複数回答・自由記載可とし、実習講義・実習について学生自身についての質問と実習内容・教員への評価、口腔機能管理模型に関する意見）を行い、次年度の実習内容の再検討を行う。</p> <p>2. 口腔機能管理模型の改良：平成26年度に摂食嚥下障害を背景にもつ高齢者の口腔内を忠実に再現した口腔機能管理模型を開発した。平成27年度は実際に学生実習で視覚教材として模型を使用し、実習後に学生へのアンケート（模型の形状や、この模型を使用して行ってみたい実技実習についてなど）を行い、教員の意見も反映し、模型の改良を行う。</p> |                    |   |                    |
| 成果           | <p>1 昨年度の実習後アンケートの結果をもとに、基礎実習の内容を変更した。新たに摂食嚥下障害を背景にもつ高齢者の口腔内を忠実に再現した口腔機能管理模型と、OSCE形式の実習試験を導入した。その結果、新しく導入した口腔機能管理模型については、すべての学生が実習に有効であったと回答し、実習での視覚教材として有意義であったと考えられた。顎歯模型の設計については、粘膜や歯肉の状態や骨吸収の度合いなど、軟組織の改良を求める意見が多かった。また、模型だけでなく、デンタルやパノラマX線写真、歯周基本検査などの資料を追加して欲しいという要望もあった。OSCE形式の実習試験については、試験自体は講義・実習総合的に理解する上で非常に有意義であったという意見が過半数であったが、時間配分やインストラクターの配置等の細かい部分の改善を求める意見が多かった。これらの意見を踏まえたうえで、来年度以降の実習内容や試験の態勢を検討し、模型の改良を行う必要があると考えられた。さらに、教員への評価については、7割程度の学生が講義内容や説明が適確であったと解答していたが、インストラクターによって教え方にばらつきがある点を指摘された。実習後アンケートにより講義・実習全般を通して、</p>  |                    |   |                    |

|                              |   |
|------------------------------|---|
|                              | <p>多くの学生から高い評価を得られたものの、国家試験間近の第6学年で行うのではなく、第4か第5学年で実施して欲しいという意見が多かった。これについては、今後の学生全体のカリキュラムの構成を検討する必要があると考えられるが、学年全体のカリキュラム変更が難しいことと、あえて第6学年で実施することで、治療計画の立案やグループディスカッションにおいて、総合的に知識を応用することができると考えられるため、実施時期についてはこのまま継続することで、教員間の意見が一致した。次年度は、教員・学生からの意見をもとにした改善点を踏まえた上で、実習内容をさらに再検討する予定である。また、今年度末に、次年度の実習内容の再検討とインストラクターの指導内容の統一を図るためのプレ実習を行い、目的を達成することができた</p> |
| <p>本プロジェクトに関連した業績、知財、受賞等</p> | <p>論文・研究発表<br/> 植田耕一郎，歯科における摂食嚥下リハビリテーションの始まりと摂食機能療法学演習の紹介，文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム(健康長寿社会の実現に貢献する歯科医療人養成) 選定事業，健康長寿社会を担う歯科医学教育改革-死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築-キックオフシンポジウム，岡山，2015，<br/> 阿部仁子，高齢者歯科学・摂食機能療法学における新しい卒前教育の取り組みについて，に本摂食嚥下リハビリテーション学会，京都，2015</p> <p>知財<br/> 特になし</p> <p>受賞等<br/> 特になし</p>   |
| <p>事業費の使途</p>                | <p>消耗品</p> <p>旅費</p> <p>その他<br/> 特になし</p>   |

## 平成27年度 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 連携大学報告書

「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—」事業

|       |      |            |       |       |       |
|-------|------|------------|-------|-------|-------|
| 連携大学名 | 昭和大学 | 連携大学事業推進委員 | 弘中 祥司 | 事務担当者 | 松原 友和 |
|-------|------|------------|-------|-------|-------|

|              | 責任者名簿   | 役職             | 役割  | 本報告書のホームページでの開示の可否                     |
|--------------|---|----------------|---|--|
| 事業組織         | 弘中 祥司<br>石川 健太郎<br>片岡 竜太  | 教授<br>講師<br>教授 | 歯学教育改革コンソーシアム事業推進委員会委員<br>歯学教育改革コンソーシアム実習コーディネーター<br>歯学教育改革コンソーシアム開発・編成担当 | <input checked="" type="checkbox"/> ・否 |
| 教育プログラム・コース名 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・特色ある医療支援歯学教育プログラム チーム医療を目指した歯科医療人養成コース</li> <li>・特色ある医療支援歯学教育プログラム 健康長寿社会を実現する病院から在宅へ切れ目のない医療を実践できる歯科医療人養成コース</li> </ul>  |                |   |  |
| 事業計画         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム医療を目指した歯科医療人養成コース</li> </ul> <p>昭和大学では高度選択科目、他大学では自由選択科目とし、第4学年に対して科目名：4学部連携チーム医療Ⅱ（学部連携チーム）学部連携PBL 90分12コマを実施する。</p> <p>第5学年では科目名：4学部連携チーム医療Ⅲ（学部連携チーム）として、学部連携病棟実習90分20コマについて、昭和大学附属の歯科室を有する病院で臨床実習を行う。</p> <p>昭和大学病医院（815床）：総合急性期病院<br/>昭和大学藤が丘病院（584床）：総合急性期病院<br/>昭和大学横浜市北部病院（689床）：総合急性期病院<br/>昭和大学烏山病院（340床）：精神疾患急性期回復期病院<br/>昭和大学江東豊洲病院（300床）：総合急性期病院</p> <p>※隣接の昭和大学附属東病院（199床）：慢性期<br/>昭和大学藤が丘リハビリテーション病院（206床）：慢性期も利用する。</p> <p>本学臨床実習規定に基づき、2か月間のうち4/5出席でかつ、修了時に課題試験を行い70%以上の正答を得た者を修了とする。臨床実習修了後に高度選択実習として病院歯科外来を利用したクリニカルクラークシップ方式をとり履修を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康長寿社会を実現する病棟から在宅へ切れ目のない医療を実践できる歯科医療人養成コース</li> </ul> <p>臨床研修歯科医師を対象とし、広範な一般医学知識をもち、病院の中で多職種と連携しながら、チーム医療を実践し、入院患者の口腔機能管理を行えるようになり、かつ、退院後の患者の生活を、医療、介護などの面から、包括的に考え、退院後の歯科診療、特に在宅・訪問歯科診療の重要性を理解し、地域連携パスに繋ぐことで地域医療に貢献できる歯科医師を輩出する。</p> <p>臨床特論講義は2単位で1単位は全身管理、救急医学、有病者歯科医療学、1単位は栄養、老年歯学、摂食嚥下リハビリテーションとする。</p> <p>臨床研修</p> <p>昭和大学口腔ケアセンター研修（1週間：連携校は2週間）を以下の施設で行う。</p> <p>昭和大学病院（815床）：総合急性期病院<br/>昭和大学藤が丘病院（584床）：総合急性期病院<br/>昭和大学横浜市北部病院（689床）：総合急性期病院<br/>昭和大学烏山病院（340床）：精神疾患急性期回復期病院<br/>昭和大学江東豊洲病院（300床）：総合急性期病院</p> |                |   |  |

|                                |   |
|--------------------------------|---|
| <p>成果</p>                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム医療を目指した歯科医療人養成コース<br/>本年度は、本学4年次学生に対して、4学部連携チーム医療Ⅱ（学部連携チーム）学部連携PBL 90分12コマを実施した。多くの学生が終了時のアンケートでチーム医療の重要性を認識していた。また、4学部連携チーム医療Ⅱ（学部連携チーム）では、模擬患者のシナリオを通してチーム医療の中での歯科医師の役割が認識されて、他学部の生徒との信頼関係の構築に重要な実習であった。次年度には、実際に病棟実習を行うため、歯科医師に必要な医科の知識の重要性が再認識されると思われた。</li> <li>・健康長寿社会を実現する病棟から在宅へ切れ目のない医療を实践できる歯科医療人養成コース<br/>本学の臨床研修歯科医全体76名の中から昭和大学口腔ケアセンターをラウンドした者は90%の68名である（3月18日が最終：現在、64名が修了）。研修終了後に実施したアンケート調査から、「入院患者の口腔のケアの重要性を説明できる」という設問に対し、コースを受講した研修医全員が「少しできる」または「十分にできる」と回答した。また、「呼吸器を装着している患者の口腔のケア」、「重度口腔乾燥のある入院患者に対する口腔のケア」という項目では「未経験」と回答した者も存在しており、今後のプログラムの進行により、改善が期待される場所である。</li> <li>・講義シリーズ、コンテンツ収録<br/>倉田なおみ（昭和大学薬学部・教授・薬剤師）、「嚥下困難者に対する服薬支援 -簡易懸濁法など-」、2016.1.21収録<br/>宮川哲夫（昭和大学保健医療学部・教授・理学療法士）、「呼吸理学療法 -基礎編-」、2016.2.18収録</li> </ul> |
| <p>本プロジェクトに関連した業績, 知財, 受賞等</p> | <p>論文・研究発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学会発表<br/>石川健太郎、弘中祥司他：臨床研修修了時における口腔のケアの習熟度の自己評価、第34回日本歯科医学教育学会学術大会、2015.7.10-11、鹿児島</li> </ul> <p>知財<br/>なし<br/>受賞等<br/>なし</p>  |
| <p>事業費の使途</p>                  | <p>消耗品</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シンポジウム開催に伴う文房具、看板</li> <li>・口腔ケアセンターラウンド研修に伴う消耗品等</li> </ul> <p>旅費</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第34回日本歯科医学教育学会総会および学術大会（鹿児島）参加2名</li> <li>・歯学生が知っておくべき周術期医療・がん支援療法の実践 連携大学FD意見交換会（岡山大学）参加1名</li> <li>・在宅医療に関わる連携講演会（岡山大学）参加1名</li> <li>・長崎離島プログラム参加1名</li> </ul> <p>設備備品費</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンテンツ作成マシン</li> </ul> <p>謝金</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シンポジウム講師謝礼（3名）</li> </ul> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シンポジウム開催に伴うポスター作成及び郵送費、抄録集作成及び郵送費、コンテンツ作成マシン収録備品レンタル代</li> </ul>   |

## 平成27年度 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 連携大学報告書

「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—事業

|       |        |            |              |       |      |
|-------|--------|------------|--------------|-------|------|
| 連携大学名 | 兵庫医科大学 | 連携大学事業推進委員 | 岸本裕充<br>野口一馬 | 事務担当者 | 鈴木明良 |
|-------|--------|------------|--------------|-------|------|

|              | 責任者名簿  | 役職                | 役割  | 本報告書のホームページでの開示の可否 |
|--------------|--|-------------------|---|--------------------|
| 事業組織         | 岸本 裕充<br>野口 一馬<br>長谷川 陽子   | 主任教授<br>准教授<br>講師 | 歯学教育改革コンソーシアム事業推進委員会委員<br>歯学教育改革コンソーシアム実習コーディネーター<br>教育カリキュラム開発・編集担当<br>実習・e-learning作成担当 | 可                  |
| 教育プログラム・コース名 | 兵庫医科大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム<br>「平時」から「有事」まで、オーラルマネジメント“CREATE”を実践できる<br>歯科医療人養成コース  |                   |   |                    |
| 事業計画         | <p>兵庫医科大学における事業計画は、<u>オーラルマネジメント(OM)の構成要素である“CREATE”を理解する研修歯科医育成を目指して構成されている</u>。プログラム履修により、歯科医師に必要とされる周術期口腔機能管理を、口腔清掃を中心とした「口腔ケア」だけではなく「オーラルマネジメント」(以下、OM)へと昇華させ、さらに近い将来に発生することが予想されている大規模災害時にOMを適応しうる歯科医師を養成する。</p> <p>OMとは、広義の口腔清掃(Cleaning)とリハビリ(Rehabilitation)の2つに加え、ブラッシング指導のような教育(Education)、的確な口腔の評価(Assessment)、抜歯や義歯の調整など歯科治療(Treatment)の5つの要素が揃うことが重要であるという概念である。これら5要素を適切に達成できれば、おいしく食べる(Eat)もしくは、楽しむ(Enjoy)ことが可能となり、これら要素の頭文字6つを順に並べるとCREATEで、「食べられる口をCREATE(つくる)」が目標である。VAP(Ventilator Associated Pneumonia:人工呼吸器関連肺炎)を予防することから始まったOMは、周術期口腔機能管理の“CREATE”を基本概念として広く普及している。「平時」すなわち非災害時は、“CREATE”を実践し、医科・歯科連携を深化できる医療人を育成する。また、このカリキュラムの最大の特徴は「平時」から、OMを「災害被災時」すなわち「有事」にも適応させることが可能なようにトレーニングすることである。兵庫医科大学は1995年の阪神・淡路大震災で病院機能を失い、医師・歯科医師が避難所を回っている間に数多くの震災関連死に遭遇し、そのうち約4割が誤嚥性肺炎によるものであった。その後、2005年のJR福知山線脱線事故(107名死亡)では都市型大災害でOMの重要性を実践し、東日本大震災では早期に被災地に入り、OMを実践した。災害急性期にはチーム医療の一員として震災関連死、特に誤嚥性肺炎を予防すべく、上記の述べたOMを患者・被災民へ応用し、使用可能な物資で大規模災害の被災地における食支援や口腔ケアを実践する知識と技術を習得した歯科医師を育成できると考える。</p> <p>兵庫医科大学は、平成28年4月の研修歯科医師の受け入れを目標としており、本年度は事業開始に伴う構成員への説明や、プログラム構築に必要な体制作り、CREATEの普及を重点的に行った。来年度より、本格的に卒後研修医の受け入れを予定している。</p> |                   |   |                    |
| 成果           | <p>本年度は、オーラルマネジメント(OM)の構成要素である“CREATE”の普及に取り組んだ。具体的には教室構成員の学会での発表および、シンポジウム、講演会の開催である。</p> <p>また、兵庫医科大学に所属する卒後臨床研修医およびレジデントに対する教育もおこなった。具体的には、他大学で開催された講演会への参加、図書および資料の購入である。また、学外から講師を招き、講演会を行った。</p>   |                   |   |                    |

|                                |   |
|--------------------------------|---|
| <p>本プロジェクトに関連した業績, 知財, 受賞等</p> | <p>発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・徳島大学病院歯科診療部門・徳島大学病院キャリア形成支援センター 主催<br/>平成27年度キャリアアップ講演会・講習事業 歯科口腔保健人材育成事業講演会<br/>口腔ケアからオーラルマネジメントへ - 周術期のキャリアアップに向けて - 岸本裕充</li> <li>・福岡歯科大学学会 シンポジウム「医科歯科連携」<br/>医科歯科連携を深めるための周術期の口腔ケア・オーラルマネジメント 岸本裕充</li> <li>・第8回 九州・山口口腔ケアシンポジウムin長崎「医療・介護現場を支えるオーラルマネジメントをめざして」<br/>オーラルマネジメントの構成要素はCREATE! 岸本裕充</li> <li>・第10回日本口腔ケア協会学術大会<br/>食べられる口をCREATEするためのオーラルマネジメント 岸本裕充</li> <li>・明石公衆衛生協会講演会<br/>健口(=けんこう)で健康をCREATEするオーラルマネジメント 野口一馬</li> </ul> <p>書籍</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本静脈経腸栄養学会雑誌31(2):1-6:2016<br/>食べられる口をCREATEするためのオーラルマネジメント</li> </ul>  |
| <p>事業費の使途</p>                  | <p>消耗品</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書籍5冊購入<br/>(イラスト手術手技のコツ、歯内療法カラーアトラス、臨床根管解剖、ケア従事者のための死生学、はいしゃさんの仕事段取り術)</li> <li>・DVD 編集ソフト</li> <li>・SD カード</li> <li>・DVD編集のためのパーソナルコンピューター(Lets note, Panasonic)</li> </ul> <p>旅費</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第15回日本抗加齢医学会総会 発表・参加</li> <li>・第20回日本緩和医療学会学術大会 発表</li> <li>・第45回日本口腔インプラント学会学術大会 発表</li> <li>・第60回日本口腔外科学会総会・学術大会 座長</li> <li>・第12回日本口腔ケア学会総会・学術大会 発表</li> <li>・第4回医療支援歯学教育コースワーク 在宅医療にかかわる多職種連携講演会<br/>みんなで取り組む在宅医療 参加</li> <li>・第3回医療支援歯学教育コースワーク<br/>死生学, 健康増進・虚弱予防の概念に基づく講義シリーズ1(生活習慣病と口腔) 参加</li> <li>・第39回日本嚥下医学会 発表</li> </ul> <p>その他</p> <p>学外より講師を招いて講演会を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・摂食嚥下障害の評価と訓練の実際<br/>東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科老化制御学系口腔老化制御学講座<br/>高齢者歯科学分野・准教授 戸原 玄先生</li> <li>・歯性感染症に由来する深頸部膿瘍・頸部壊死性筋炎の基礎と臨床<br/>東海大学医学部付属八王子病院 口腔外科 教授 坂本春生先生</li> </ul> |